

ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第7回）

議事要旨

1. 日時

令和4年7月27日（水） 10:00～11:05

2. 場所

WEB会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、寺田 麻佑（国際基督教大学教養学部上級准教授）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

（2）総務省

豊嶋電波部長、荻原電波政策課長、中村移動通信課長、伊藤移動通信課課長補佐

4. 議事

（1）開会

（2）議事

・提言書（案）について

（3）閉会

5. 議事の経過

- 提言書（案）について説明。
- 提言書（案）について、構成員から次のような意見があった。
- 全体的な人材像として、グローバル人材という表現があるといいと思う。
- アマチュア無線の体験運用を広げていくにあたり、体験運用を円滑に進めることが可能になるよう、マニュアル等が必要ではないか。
- 無資格者の体験運用については、小中学校のクラブ活動、大学でのサークル活動、有識者が個別に草の根的に行う活動、あるいは地域のコミュニティ活動など、あらゆる機会を捉えて行っていく必要がある。
- 提言案の一つ一つを実現するためには、アマチュア無線に関わっている業界の方々、アマチュア無線を普段楽しんでいるの方々、皆さんの協力がないと実現しないと思う。
- ワイヤレス人材育成に、どのような形で業界として取り組んでいけるのか、前向きに検討していきたい。
- 無線機器のチェックや国の監督は減らすべきではなく、引き続き国が監督責任を果たしていくべき。

- 電波の楽しさ・大切さとともに、電波の重要性についても提言に入れるといいと思う。
- 2020年から始まった5Gと、それから2030年ごろから実用化するであろうBeyond 5Gあるいは6Gの基盤となるのがワイヤレスコミュニケーション。技術革新への急速な対応という意味では、非常に重要な局面で本アドバイザリーボードがあったと考える。
- 電波を使うことへの責任に基づく自発的なエシックスの確立が、今後、青少年の教育にも人材育成にも重要と思う。
- 協調性があった上で競争力があり、国際競争力と同時に国際協調力というのも大事。
- アマチュア無線業界から学校の先生方へのプロモーションを考えなければいけない。学校の部活動の活性化が重要と考える。
- アマチュア無線は、国際親善に役立つと言われてきた。今の言葉で言うとグローバル化であり、その中身は国際親善や国際協調、異文化理解であり、その認識を高める意味は高いと思う。
- アマチュア無線を知っていただくことが一番重要。アドバイザリーボードで検討したことで、アマチュア無線を愛好している人たちにとっても、意識の向上やモチベーションの向上につながっているのではないかと。
- 現在アマチュア無線の方々が抱えている課題に関して、改善に向けて一歩となる提言になっているのではないかと。人材育成を中心に多角的に議論を進めてきたが、アマチュア無線を体験しやすくするとか、始めやすくする、続けていくということを推進できる提言になっているのではないかと。
- 貴重な電波を使うことに対するアマチュア無線家の責任という面もかなり明確になっているのではないかと。うまくバランスをとりながら、将来のアマチュア無線の活性化につなげていけるとよいのではないかと。

以 上